



お問い合わせ先

中国四国農政局島根県拠点

〒690-0001 島根県松江市東朝日町 192 ☎0852-24-7311

中国四国農政局農村振興部農村計画課

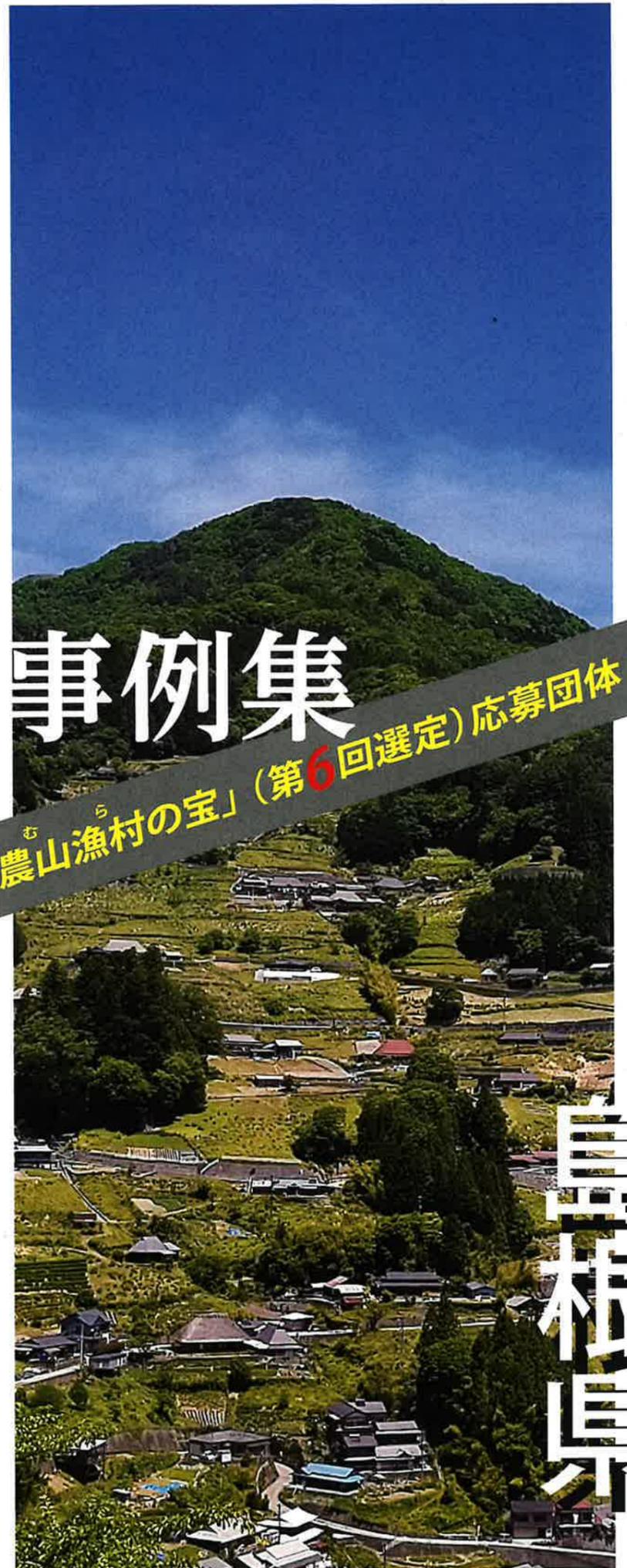
〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井 1 丁目 4 番 1 号 ☎086-224-4511

取組事例集

「ディスカバ^らー農山漁村の宝」(第6回選定)応募団体

令和2年3月
中国四国農政局

島根県



発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和元年度）で6回目となります。

中国四国農政局管内では220件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区と1名（全国31地区と5名）が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として21地区と3名を選定するとともに、今年度から今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として14地区と5名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和2年3月
中国四国農政局農村振興部

目次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について ……	1
○ 応募団体一覧 ……	8
○ 応募団体位置図 ……	9
○ 応募団体の取組事例 ……	10

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）では、令和元年7月1日から9月2日までに、農山漁村活性化の取組として全国から931件（管内からは220件）の応募があり、10月21日に首相官邸で開催された第3回有識者懇談会において団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）として31地区と今回より新設された個人部門として5名が選定されました。

12月3日開催の選定授与式及び交流会では、選定地区の代表者を首相官邸に招いて選定証を授与し、内閣総理大臣、農林水産大臣、地方創生担当大臣からの直接の激励や地域リーダー同士の交流が行われました。また、12月4日には「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の紹介や選定地区の知名度向上に資するため、東京都内で選定地区による即売会（マルシェ）が開催されました。

中国四国農政局管内から優良事例として6地区と1名が選定され、その中から最優良地区のグランプリに島根県大田市の「株式会社 魚の屋」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」交流会



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった220件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和元年11月、中国四国農政局において選定委員会を開催し、21地区と3名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として14地区と5名を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

選定地区オリジナルロゴマーク

(1) 全国版選定地区〔管内〕の概要（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第6回選定））

株式会社 魚の屋（島根県大田市） **グランプリ受賞地区**

- 国内市場が1%しかない天然わかめの刈りとりを漁師に依頼し、それをもとに新商品開発と販売を実施。
- 天然わかめの加工処理について、加工場で行うほか、障がい者就労施設や一人暮らしの高齢者に作業の一部を委託。



天然わかめを採取している姿

浄謙寺（広島県北広島町）

- 地域の魅力と仏教を伝えるため、地元産野菜を用いて作ることが可能なイタリアン精進料理の取組を実施。
- 料理の提供だけではなく、住職とともに読経や説法も合わせて実施。



食前の法話風景

株式会社 三見シーマザーズ（山口県萩市）

- 規格外の魚を収入に繋げるとともに、食事に困っている一人暮らしの高齢者へ食事を宅配しようと、弁当・惣菜の加工・販売の取組を実施。
- 道の駅のレストランを運営し、鮮度の高い地元産の魚料理を提供。
- 小中学生を対象に料理教室を実施し地元産の魚のおいしさを伝える。



高齢者宅へのお弁当・お惣菜の宅配

新居 希予（徳島県阿南市）

- 結婚により12代続く米農家で栽培に従事し、農業の厳しさや農産物の将来性、地域の魅力などを伝えることの重要性を痛感し、わかりやすく消費者に伝える「表現する農業」の取組を実施。
- 伝統黒米「弥生紫」の唯一の生産農家として伝統を継承する傍ら、地元テレビやyoutubeでの配信、学校の農業体験などにより生産現場から情報発信。



食いしん坊図絵を作成し食育、メディアで活用

愛媛県立 宇和島水産高等学校水産食品研究部「フィッシュガール」
(愛媛県宇和島市)

- 愛媛県産魚のPRを行うため、産官学の連携の下で女子生徒が養殖クロマグロの解体ショーや加工品開発、魚食の実演販売を実施。
- 「ブリ大根缶詰」や「鯛めしの素缶詰」等の開発製品を国内外で販売。



ハワイでのマグロ解体

農業生産法人 株式会社 ミヤモトオレンジガーデン（愛媛県八幡浜市）

- 「農業を事業として取り組む」との考えで、グローバルGAPや6次産業化に積極的に取組ながら、みかんの農業法人を運営。
- 廃棄していた摘果みかんを調味料「塩みかん」に活用するほか、GAP認証取得支援システムを開発し、他社の取得を支援。



GAP 経営研究会を開催

農事組合法人 ヒューマンライフ土佐（高知県越知町）

- 山間部の傾斜地でも栽培可能で軽量なため高齢者でも作業ができる生薬を製薬会社との契約栽培で生産。
- 乾燥・調製等の加工作業は他の産地からも集荷して行い、製薬会社に納品。



土佐ツムラの森にて中学生の薬草採取体験

(2) 地方版選定地区の概要（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

農業生産法人 株式会社D'sプランニング（鳥取県大山町）

- 勤務体系はサラリーマン並みを目指し、早朝出勤した場合は夕方早く帰宅できるよう配慮されている。また、子育て世代のお母さんや年配の方でも作業ができるよう棚の高さや作業工程など工夫している。
- 制服（作業着）やホームページの作成にこだわりを持ち、今までの農業のイメージとは違う情報発信をおこない雇用の確保に努めている。
- 2018年 ISO9001 取得



日々切磋琢磨し、頑張っています！

出雲市斐川土地改良区（島根県出雲市）

- 次世代を担う子供達を対象に平成12年度から出前授業、遊水池で行う生き物調査などを実施。
- 非農家も参加した水路の草刈りや泥上、子供達も参加した「花のまちひかわ」の活性化に向けた植栽活動、水路脇の親水公園を活用したホタルの育成を実施。
- 米米(まいまい)田んぼとして、給食用米の田植えや稲刈り体験を実施。



保育園児と地元住民による植栽活動

株式会社 おおち山くじら（島根県美郷町）

- 町内で捕獲されるイノシシの約7割を集約し「おおち山くじら」という地域ブランド商品として確立し、全国へ販売展開。
- ポトフやカレーなどの6次産業化やイノシシの内臓は、ペットフード商品の原料などに活用。
- 革製品の制作により、女性・高齢者活躍の場の創出。



地域の女性部による革製品の製作

岡山県立 岡山南高等学校商業クラブ（岡山県岡山市）

- 米トレーサビリティ制度の勉強会を行い、制度の概要や社会的役割について学ぶ。
- 「駅弁」を企画することを決め、地元企業「株式会社三好野本店」に製造を委託。
- 農業が盛んな岡山県の特性を生かした、米だけでなく、様々な県産品を使った駅弁を開発し、発売までを実現。



休校日を使って定期的に販売会を開催

合同会社 ど根性ファーム（岡山県笠岡市）

- 通年栽培が可能な青ねぎを栽培。
- 障がい者・高齢者の作業の多様性創出と収益性アップのため、カットネギの製造に取り組み、6次産業化の認定を受ける。
- 生産から加工に係る作業工程において、座って作業ができる環境を整備するなど、働き手が作業しやすい環境を整備している。



座って作業できる環境を整備

みかわてらす（岡山県矢掛町）

- 専門家のアドバイスを得ながら、地域内にある農産物を活用した商品の開発を行った。
- 商品のコンセプトは「フタを開けてすぐ野菜が食べられる」等、健康志向の高い女性をターゲットとした商品開発に取り組み、パッケージ等にまでこだわった「陽気なピクルス」を開発した。
- カフェ「えんがわ食堂」をオープンし、ピクルスを使った食事を提供。



陽気なピクルス

農事組合法人 よしやま（広島県広島市）

- 農業体験教室の実施。
- 地元企業との連携による経営の安定化、及び地区の活性化。（メーカーとの契約栽培、ミニ道の駅（Oishi 吉山）の誘致、地区内レストランとの連携）
- 地区内での積極的雇用。植え付け、収穫期に年間延べ2,000人のアルバイトを雇用。



農業体験教室

株式会社 敷信村農吉（広島県庄原市）

- 自社農場米や地元旬野菜を使用した給食の提供、園庭での野菜を栽培など、農が身近にある地域特性を生かした保育を実践。
- 農家所得の向上や地域内交流の活性化のため、H20年に野菜の販売や卸を開始。耕作放棄地を活用した自社農場もスタート。
- 「日本の酪農の礎を築いた地」であることを知った地域の若者の希望を受け、H25年にチーズ工房を新設。



農とともに、地域とともにある保育の実践

本多 正樹（広島県安芸高田市）

- 農地中間管理機構を活用し、担い手間で農地を交換。
- 新規、若手農業者の横の連携を軸に「新規就農者激励会」というイベントを立ち上げ、若者が地域で活動している事例を発信。
- 地元JA管内の若手農業者グループ「ひろほく農考会」の初代会長。地域の農業をあらゆる角度から考えるため、視察や意見交換などの活動に取り組む。



配食弁当でこだわりのお米を提供しているほ場

株式会社 ハートランドひろしま（広島県北広島町）

- 省エネ・環境にやさしいフィールド養液栽培で、ホウレンソウを通年栽培。利用者が整地、収穫、選別、袋詰め等の全作業を行う。
- ミニトマト、大根、白ねぎ等をハウスや露地で栽培。ミニトマトは、各ハウスを担当制にし、利用者1名が責任を持って管理を行う。
- 組合員の家族が実際に農業を体験できる場として、組合員交流を年8回開催し、農業や福祉への理解を促進。



養液栽培のホウレンソウと利用者

株式会社 秋川牧園（山口県山口市）

- 地元農家と飼料用米生産のネットワークを形成。米農家の技術を活用しつつ、グループで行う視察会を通じて栽培技術の向上と生産意欲を拡大。耕作放棄地を復活。
- 多収専用品種の飼料用米を給餌した鶏の堆肥を飼料用米の栽培圃場に投与し、理想的な循環型農業を実現。
- 飼料用米多収日本一コンテストへの応募。グループから平成29年の農林水産大臣賞（日本一）受賞を筆頭に毎年受賞者を輩出。



年2回実施する、飼料用米検討視察会の様子

株式会社 木原製作所（山口県山口市）

- “地域創生”として企画立案、乾燥技術提供、試作品開発、パッケージデザイン提案、保存・販売アドバイス、商標登録実務までを無償で行い、市内事業者の商品開発をサポート。
- 事業者とともに、ドライフルーツ、漢方薬原料、和紙、パン、花のふりかけ、カレー等、従来の乾物のイメージを覆す多彩な利用方法と商品を開発。



開発商品の合同販促体験

特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保存会（山口県長門市）

- 耕作放棄地を無償で借り受け、さつま芋や景観作物の植付、ハーブの植付による鳥獣害対策など、棚田の保全活動を実施。
- 小中学生を対象とした花香づくり・昆虫トレール教室、いも掘り体験の受入など、体験教室を開催。



夏休み宿題お助けツアー：昆虫とれ～る

株式会社 農家ソムリエーズ（徳島県徳島市）

- 香港、台湾、マレーシア等のアジア圏へ輸出を行い、県や地域商社と連携し、現地でイベント販売とプロモーションを実施。
- サツマイモチップス「おさっち」を開発・販売。自社生産した「なると金時」を使用し、生産、加工及び販売を行う6次産業化を実現。
- 地域の子どもたちに栽培体験を通じた食育の推進。



なると金時チップス おさっち

GOTTSO 阿波（徳島県阿波市）

- GOTTSO（ごっつお）とは阿波弁で「ごちそう」という意味。野菜の出張販売や広報などを行い、農業の盛り返しを図る。
- 「美～ナス」を使い、幼稚園や小学校での食育を通じて、消費量増加への取組を行っている。
- 「グローバル GAP」、「とくしま安2GAP 農産物」認証の優秀認定」を取得し、東京オリンピック・パラリンピックの選手村に「GOTTSO 美～ナス」の納品を目指す。



2019 年度 PR 用ポスター

西岡田 治 治（徳島県つるぎ町）

- 標高 300m、傾斜 30 度の急傾斜地の畑 20a で栽培しているソバの花が満開の毎年 9 月下旬から 10 月中旬に観光農園として一般開放し、急傾斜地農耕を実感してもらっている。
- 平成 27 年、旧暦 10 月の最初の亥の日に行われる地域の伝統的農耕行事「お亥の子さん」を、地域の小学生とともに 25 年振りに復活させた。



花咲くソバ畑

有限会社 赤松牧場（香川県高松市）

- 赤松牧場が堆肥を供給した圃場で、耕種農家が稲 WCS を栽培し、生産した稲 WCS を飼料として畜産農家へ供給。平成 28 年に WCS 生産組合を設立し、平成 30 年には耕種農家 14 名で、栽培面積を 20ha まで拡大。
- 堆肥調整保管施設の整備等を実施し、耕畜連携の可能性を拡大。
- ジェラートショップは地産地消のため、近隣農家のブドウ・イチゴ等を仕入れて利用。



堆肥を利用して栽培したトウモロコシの収穫

香川用水土地改良区（香川県高松市）

- 平成 29 年 7 月に香川用水記念会館の移転整備を行い、新たな記念会館を拠点とする情報の発信。
- 小学 4 年生を対象に出前授業を開催し、併せて香川用水施設の見学と幹線水路内の清掃作業を実施。
- 幹線水路（59km）について、地域住民のボランティアに巡視員を委嘱し、地域住民と一体となった施設巡視体制を構築。



香川用水幹線水路・開水路区間

阿部 隆弘（香川県三木町）

- JA 関係者と障がい者の工賃値上げ交渉を行い、単価の値上げ、休日の割増賃金及び交通費の支給を実現し、申し合わせ書を作成した。
- 市町と連携して障がい者就労施設を対象とした参入促進説明会や技術研修会の開催、農福連携による農作業の説明用マニュアルを作成している。



平成 30 年度 農作業支援強化研修会・琴平

四海漁業協同組合（香川県土庄町）

- 「小豆島 島鯉」を名乗るため、4つの基準を設け、他地域との差別化を図る。
- 島内業者が水揚げしたハモを共同出荷することにより安定した品質・出荷量を確保。
- 加工品の開発を可能とするため、ハモ骨切機、大型真空包装機等を導入し、骨切を行ったハモの販売（1次加工品）に取り組む。
- 京都産業大学と連携し、情報発信を強化。



小豆島島鯉まつり・初出荷式

株式会社 玉津柑橘倶楽部（愛媛県宇和島市）

- 被災直後、玉津クラウドファンディングを立ち上げ、全国からの義援金はスプリンクラー施設の補修費に充当。
- ボランティア、アルバイトの受入れには宿泊施設が無いため受入人数に制約があったが、JA えひめ南と連携し研修施設を開設。
- 生産者の所得向上を目的に、みかんや宇和ゴールド（河内晩柑）のジュースを商品化。



玉津オリジナルみかんジュース

道の駅よって西土佐（株式会社 西土佐ふるさと市） （高知県四万十市）

- 新たな名物として、地域の食文化を尊重しつつ「洋」を取り入れた、四万十天然鮎を使った「鮎のコンフィ」を開発。
- 生きた鮎を築地市場へ運ぶための品質管理、流通技術・管理を開発。現在天然活魚を豊洲市場に送っているのは四万十川のみ。
- 上流から下流まで「全漁協による四万十鮎ブランドプロジェクトチーム」発足。



日本で唯一鮎市場のある道の駅

農事組合法人 上東（高知県の町）

- 集落営農組織主体で機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。有望品目研究部門を設立し、全組合員が野菜作りに親しむ環境を整備。
- 何度も協議を重ね、平成31年1月に「農事組合法人上東」を設立し生産体制を強化。
- 3月末のカタシの花祭り時期に合わせ住民手づくりのイベントを開催し、都市住民との交流を図る。



農事組合法人上東 設立総会

集落活動センターゆすはら西推進委員会（高知県梶原町）

- 獣肉解体処理施設の建設とジビエカーの導入（平成29年度）。
- 鹿の捕獲は多いが町中心部から遠い松原区を中心にジビエカーを運用することで、解体処理施設への円滑な搬入を実施。
- 元ゆすはら応援隊員や移住者等の担い手人材を雇用。

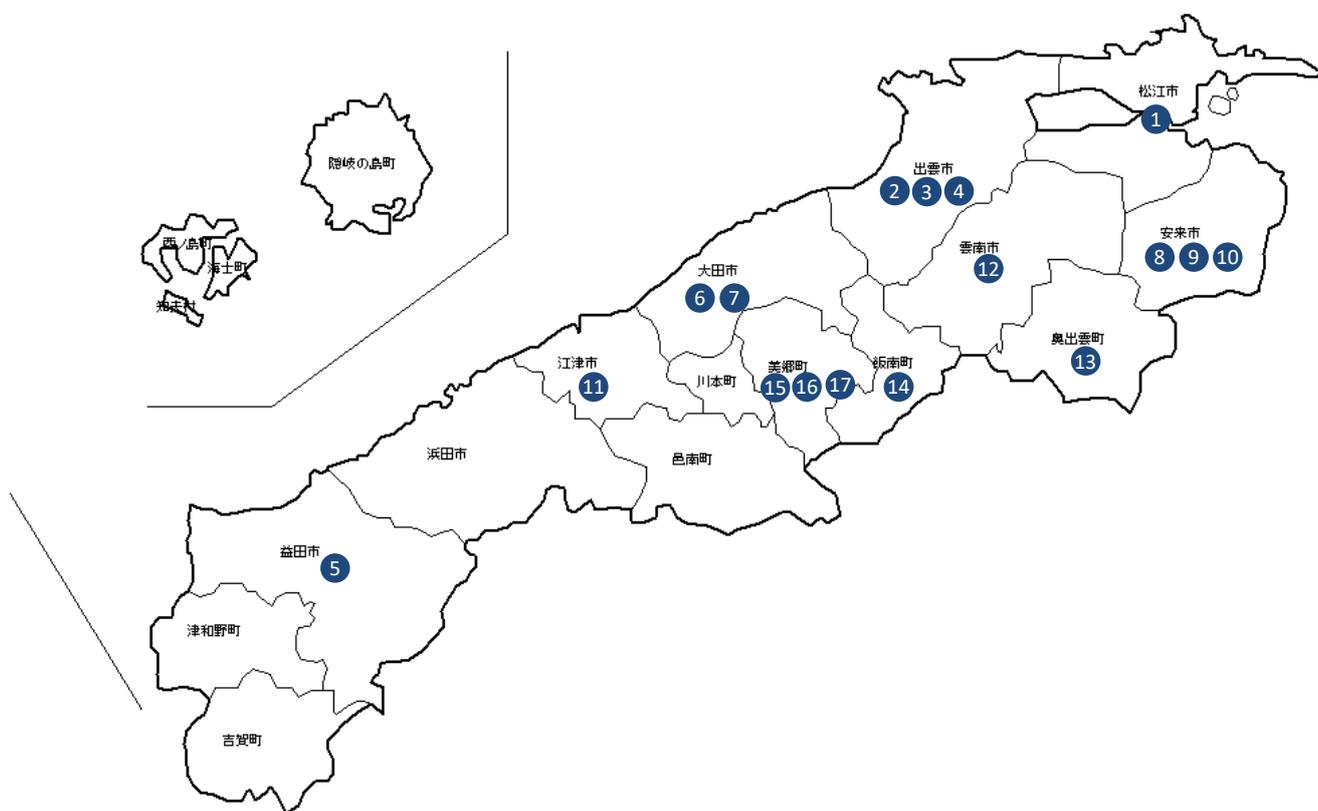


新設した解体処理施設と日本初導入ジビエカー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第6回選定) 応募団体 一覧 (島根県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①	奨励賞	個人	松江市	泉 智加	伝統の継承	食育・教育	6次産業化
②		コミュニティ	出雲市	八幡元気むらづくり実行委員会	環境保全・ 景観保全	伝統の継承	食育・教育
③		コミュニティ	出雲市	出雲市斐川土地改良区	自然・景観	食育・教育	—
④		コミュニティ	出雲市	有限会社 アグリコントラクター	雇用	6次産業化	農福連携
⑤	奨励賞	コミュニティ	益田市	真砂公民館	地元食材の 提供・活用	食育・教育	女性・高齢者の 活躍
⑥		コミュニティ	大田市	石見銀山代官所跡周辺域活性化協議会	農泊	企業・地域住民 等との連承	—
⑦		ビジネス	大田市	株式会社 魚の屋 (グランプリ)	6次産業化	農福連携	高齢者の活躍
⑧		ビジネス	安来市	農事組合法人 のきの郷	農林漁業	農村文化体験	—
⑨		コミュニティ	安来市	永田集落農地・水保安全管理活動組織	自然・景観 の維持	伝統の継承	—
⑩		ビジネス	安来市	特定非営利活動法人 眞知子農園	農林漁業	農村文化体験	農福連携
⑪		コミュニティ	江津市	跡市環境保全組合	伝統の継承	教育機関との 連携	—
⑫		コミュニティ	雲南市	中野の里づくり委員会「笑んがわ市」	高齢者の活躍	—	—
⑬		コミュニティ	奥出雲町	川西21世紀里づくり委員会	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	田舎と都市 住民との交流
⑭		コミュニティ	飯南町	頓原公民館	鳥獣被害防止	環境保全・ 景観保全	若者・学生の 活躍
⑮		コミュニティ	美郷町	特定非営利活動法人 別府安心ネット	環境保全・ 景観保全	移住・定住	その他 (福祉活動)
⑯		コミュニティ	美郷町	熊見地域アグリネット	鳥獣被害防止	環境保全・ 景観保全	—
⑰		ビジネス	美郷町	株式会社 おおち山くら	ジビエ	移住・定住	6次産業化

応募団体位置図（島根県）



1

まつえ
島根県松江市

伝統の継承

食育・教育

6次産業化

いずみ ちか
泉 智加(いち花 代表)

～はちみつパワーで島根県を明るく元気に！～



養蜂作業風景



はちみつ講座の様子

地域にこだわった
市町村別の商品

経緯

○約5年間、島根県の観光誘致の仕事に携わる中で、「細長くて離島もある島根県を1つのモノで盛り上げたい」と思っていた。また、親戚が養蜂をしていたので、生はちみつを幼い頃から食べて育ち、はちみつ好きが高じて、「しまねを蜂蜜で盛り上げていきたい！」と思うようになり、平成29年4月に起業。

取組内容

- 小瓶の味比べ商品や蜂蜜加工商品を一手に販売していくことで市場に出回りやすくする。
- SNSを活用し、養蜂家としての専門的目線、女性ならではの視点で島根県内外へ幅広い情報発信を行い、自社や島根県の認知度の向上に寄与している。
- 養蜂業などを知ってもらう取り組みを体験を交えて定期的に行っている。

活動の効果

- 6市町村の蜂蜜の取り扱いを行うことになり、一定量を確保できたため、販売先を大阪、首都圏などの小売店や飲食店に拡大できた。
- 松江市の養蜂家からの風土にあった養蜂の知識・技術の習得を行うとともに養蜂・蜂蜜の情報発信が養蜂業を未来へ繋げる一助となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

自らの事業の収益を確保して持続可能な事業としていくことで、養蜂家の収益確保につなげ、事業としての養蜂、文化としての養蜂、蜂蜜という食文化の持続に寄与していきたい。

島根県松江市北陵町 mail : ichika.honeyshop@gmail.com

やわた
八幡元気村づくり実行委員会

～過疎には屈しない八幡元気村づくり～



大呂神社の子供奉納神楽



令和元年8月13日に開催した大呂夏祭り

経緯

- 基幹産業であった農業、林業が衰退、少子高齢化により集落機能の低下が危惧される中、生まれ育った地域を守りたいという強い郷土愛から平成25年に「八幡元気村づくり実行委員会」を設立。
- これまで地域で行っていた活動を統括管理し、何事も全員でをモットーに取り組んできた。

取組内容

- 八幡神楽の復活のため、八幡神楽保存会を結成し、地元神社で奉納。
- 荒廃林を整備し、400本のソメイヨシノを植栽。八幡桜保存会で管理維持に努めている。
- 自治会内の農道の約9割を会員でコンクリート舗装を行い、農用車両、農業機械が安全に通行できる環境を整備。
- 毎年、6月に地元清流に生息するホタルを觀賞しながらの婚活イベント(ホタル婚)、お盆には、大呂夏祭りを実施。

活動の効果

- 八幡神楽保存会では子供神楽など次世代への継承にも力を入れており、後継者も着実に育ちつつある。
- 春にはソメイヨシノが綺麗に咲き乱れ、景観保全と併せ、地元住民はじめ多くの人々の目を楽しませる地元観光スポットとして定着している。
- 大呂夏祭りでは近年、若年層や家族連れの来客も増加し、地域の活性化に大きく寄与している。

応募団体からのアピール・メッセージ

過疎に屈しない元気な村づくりを目標に地域の魅力を掘り起こし、住んで良かった、ここに来て良かったと言われる集落にしていきたい。



ひかわ

出雲市斐川土地改良区

～見つけよう！今、元気なムラの取組～



保育園児と地元住民による植栽活動



遊水池での親子で生き物調査

経緯

- 将来の斐川町農業の担い手となる子供達に農業を通じて生態系保全の重要性、食の必要性、農業用施設の役割を学ぶ機会に接することにより農業を身近に感じてもらう必要性を認識。
- ふるさとである斐川町の農村風景を後世に残していきたいとの考えから農業用施設への花苗の植栽活動を開始。

取組内容

- 次世代を担う子供達を対象に平成12年度から出前授業、遊水池で行う生き物調査などを実施。
- 非農家も参加した水路の草刈りや泥上、子供達も参加した「花のまちひかわ」の活性化に向けた植栽活動、水路脇の親水公を活用したホタルの育成を実施。
- 米米(まいまい)田んぼとして、給食用米の田植えや稲刈り体験を実施。

活動の効果

- 施設の役割や農業の重要性などを伝える活動が、地域の誇り、大切にしている心を育むと小学校の先生方から高い評価を得て、食料自給率を学ぶ授業として毎年出前授業の実施を要望され、農業へ興味が沸き、将来農業を希望する児童も沢山出ている。
- 「花のまちひかわ」の活性化に向けた植栽活動は、地域内外の方々にも評価を得ており、地域の憩いの場を提供するとともに、活動の際に地域の繋がりを感じ、昔ながらの農村風景の和気あいあいとした活動が展開されるようになった。

応募団体からのアピール・メッセージ

出前授業や生き物調査は今後も継続し、農業の重要性を幅広く周知し、施設の維持保全、地域景観の環境の整備にも力を入れ、斐川町のかげがえのない地域資源を、次世代を担う子供達へ繋げていきたい。

出雲市斐川土地改良区 Tel: 0853-72-0704

有限会社アグリコントラクター

～地域特産品を活用した地域連携の推進～



養護学校生徒の職場体験



幼稚園児の花粉付け体験

経 緯

- 平成12年、神門地区の特産品として水田転作で「梨」の新団地が整備され、栽培の中心組織として営農開始。
- 地域密着型農業の方向性を模索する中、ひきこもり問題に取り組む団体からの受け入れを開始した。その後、障がい者施設の就労の場の提供も含めて、農福連携の取り組みをいち早くスタートした。

取組内容

- 福祉施設(4事業所)と連携を図り、「梨」の栽培・調整から販売に至るまで各作業を施設外就労として受入実施。
- 青少年の相談団体(出雲市子ども・若者支援センター等)からの依頼を受け、農作業の場を提供。
- 保育園、幼稚園、小学校などと連携し、梨の花粉付け体験や出前授業などを行い、地域の特産品である「神門梨」の啓発活動を実施。

活動の効果

- 農福連携を地元の福祉施設といち早く構築し、障がい者就労の受け皿となる。
- 青少年の相談団体の依頼を受け、作業の場の提供と就職希望者の受け入れによる雇用の創出。
- 児童を受け入れ、梨の花粉付けの体験学習などを行い、地域の特産品の知名度向上、ブランド化に貢献。
- 高齢化による離農樹園地の荒廃防止に寄与。

応募団体からのアピール・メッセージ

設立当初より、地域の農業振興及び就労の受け皿として活動を展開し、現在では、保育園、幼稚園、小・中・高等学校、福祉施設と多岐に渡る連携を行っています。これからも地域連携の積極的な取り組みを行い、社会貢献に微力ながら尽力していきたい。

まさご
真砂公民館

～「とにかくやってみようよ！」食育活動を基軸とした地域づくり～



安心安全な食材を保育所食材として提供

集出荷のしくみ 平成29年度よりクラウドサービスを利用し事務作業をシステム化



クラウドサービスを使った野菜出荷の仕組みを構築

経緯

- 農家の高齢化が著しい真砂地区を今以上に元気な姿で次世代に引き継ぐため、全住民で将来目指すべき「真砂像」を描き、「とにかくやってみようよ！」を合言葉に、平成23年度より活動開始。
- 高齢農業者の生きがいづくりや経済力向上に貢献することを目的に、農業を基軸とした「食育活動」による地域づくりの仕組みを構築。

取組内容

- 農業者・学校・地域商社の協働活動を公民館が事務局として支援。
- 地域生産者の農産物を、市内の3保育所、レストラン、大型スーパー、トワイライトエクスプレス“瑞風”へ食材提供。
- 小学生は自ら育てた野菜を地元保育所に提供やカフェの営業体験を実施。中学生は地元農業法人での農業体験、地域商社との連携で商品レシピを開発し、給食でのメニュー化や大型スーパー等で販売。

活動の効果

- 高齢農業者が生きがいとして活動に積極的に参加し、発足当初の平成23年度から誰一人として欠けることなく歩んでいる。
- 基軸となる食育活動から、次の取り組みが生まれ、地域活動の更なる展開に発展。
 - ①地元保育所による高齢者と園児との日常的交流「里山保育」の実践
 - ②買物弱者の支援活動(市内大型店舗までの買い物バスツアーの試行運行)
 - ③地域自治組織による住民が気軽に集える「交流サロン tele-glue」の開設

応募団体からのアピール・メッセージ

真砂公民館では、農業者・学校・地域商社の協働で、地域住民の経済活動や将来を担う子供たちの「ふるさと教育・キャリア教育」を支援してきました。この活動の土台を礎に、人口360人という小さな集落ならではのユニークな取組を実践していきたい。

いわみぎんざん

石見銀山代官所跡周辺域活性化協議会

～次世代につなげる地域資源～



阿部家修復後の建物

地元食材を使ったメニュー



元気カレンダー用 集合写真

経緯

- 平成19年、石見銀山遺跡と文化的景観が世界遺産に登録され、様々な取り組みを行ってきたが、宿泊施設が少なく日帰りの観光客が多い状況にあった。
- 日帰りから滞在型への転換を図るため、宿泊場所の確保等の活動を行う活性化協議会を設立した。

取組内容

- 武家屋敷を宿泊施設として修復。宿泊者とオーナーが食卓を囲む団欒を提供。
- 商家の酒蔵を移築した食事処を設置、地域食材メニューを考案し提供。昨今は、宿泊の拠点とするためリニューアルし、隣接する蔵を宿泊施設に改修。
- 滞在型旅行者をターゲットにポータルサイトをリニューアル。
- 町民意識を高めるため、全町民による集合写真を撮影し、カレンダーを全戸配布。

活動の効果

- 武家屋敷、古民家など古くからある建物を再生し、建物の魅力も相まって、現在は、満室状態が続き、石見銀山の玄関口としての機能を果たしている。また、地域食材のメニュー開発・提供は地域の農業者等の生産意欲向上に繋がっている。
- ポータルサイトのリニューアルにより、2018年4月開設以降、多くの口コミが発生し、ブログでの紹介など確実にアクセス数が伸びている。
- 元気カレンダー作成の効果が現れ、町民の強力・連携体制が生まれつつある。

応募団体からのアピール・メッセージ

石見銀山は1923年の休山まで約400年にわたって採掘されてきた日本を代表する鉱山遺跡で、今も遺跡として当時のままに残されています。石見銀山と文化的景観を堪能でき、そして、そこに暮らす人との交流が体験できます。